

I 世界史B問題

アロー戦争後の北京条約で開港場が増加し、外国人の内地旅行の自由が認められたため、欧米諸国の経済進出が進展した。また外国公使の北京駐在を認めて、総理衙門を設置し、外国と対等外交を始めた。さらに清仏戦争後の天津条約でベトナムの、日清戦争後の下関条約で朝鮮の宗主権を放棄したことで、清を中心とする冊封体制が崩壊した。そして天津条約でフランスに清南部の通商特権を、下関条約で日本に開港場での企業設立や台湾などの割譲を認めたため、清の弱体が露呈して、中国分割が本格化した。義和団事件後の北京議定書では外国軍隊の北京駐屯を認め、中国の半植民地化は決定的となった。また多額の賠償金は重税につながり、反乱が頻発した。（300字）

Ⅱ 世界史B問題

A

a	建康
b	後梁
c	永楽
d	海禁

(1)	夏
(2)	(ア) 武帝
	(イ) 平準法
(3)	孫権
(4)	八王の乱
(5)	高句麗
(6)	(ア) 靖康の変
	(イ) 淮河（淮水）
(7)	泉州
(8)	エセン
(9)	曾国藩

B

e	メッカ
f	アリー
g	チュニジア

(10)	巡礼
(11)	メディナ
(12)	ウマル
(13)	フラグ
(14)	(ア) ワッハーブ派
	(イ) サウジアラビア
(15)	ベルベル人
(16)	サラディン (サラーフ=アッディーン)
(17)	(ア) ティムール朝
	(イ) バーブル
(18)	アウラングゼーブ
(19)	パフレヴィー朝

Ⅲ 世界史B問題

ローマでは中小農民による重装歩兵が軍隊の中心となり、元老院の指導下で市民団の共和政が行われていた。しかし、ポエニ戦争を機に長期の従軍で疲弊した中小農民が没落し、貧富の差が拡大して重装歩兵軍団が弱体化すると、グラックス兄弟が中小農民層を立て直し、重装歩兵軍団の再建をはかったが失敗した。その後、無産市民を動員する職業軍人制をマリウスが導入すると、ローマ軍団は将軍である有力者の私兵としての性格が強まり、軍団を率いる有力者が三頭政治を行うなど混乱が続いた。最終的にオクタウィアヌスが内乱を終結させると、彼は共和政の伝統と元老院を尊重しつつもローマ軍団の全指揮権を握り、事実上の帝政である元首政を開始した。（300字）

IV 世界史B問題

A

(1)	十字軍の遠征にともなって，東方貿易が発展した。	
(2)	毛織物業	
(3)	親方	
(4)	(鉄製)重量有輪犁	
(5)	大空位時代	
(6)	州代表の騎士と都市代表の市民。	
(7)	金印勅書（黄金文書）	
(8)	高等法院	

B

(9)	アヴィニョン
(10)	領邦君主が領内の教会のカトリックカルター派かの決定権を持つ。
(11)	文化闘争
(12)	ユトレヒト同盟
(13)	サンバルテルミの虐殺
(14)	典礼問題
(15)	ピルグリム=ファーザーズ（巡礼始祖）
(16)	ウィリアム3世
(17)	アルスター地方

C

(18)	ハイチではフランス革命の影響で，黒人奴隷がトゥサン＝ルヴェルチュールらを指導者として蜂起し，フランス軍を破って黒人共和国を樹立した。	
(19)	パナマをコロンビアから独立させてパナマ運河を建設し，運河の支配を続けたが，20世紀末に返還した。	
(20)	ハワイ	
(21)	タバコ＝ボイコット運動	
(22)	イギリス・フランスなどの干渉に対し，「エジプト人のためのエジプト」を掲げて立憲制の樹立などを目指した。	
(23)	イギリス	
(24)	ヨーロッパ連合（EU）	